

ジョン・キーツ

4 ロビン・フッド

ああ あの日は過ぎ去ってしまった  
あの時間は古く 色あせ  
その一刻一刻が すべてを葬った  
幾年もの間 踏み固められた  
落ち葉の棺の下に 葬った 5  
幾度となく冬の大 鋏は<sup>おおばさみ</sup>  
凍てつくような北風と寒々とした東風を轟かせ  
かさこそと囁く森の  
落ち葉の饗宴を 吹き上げた  
人々が地代や借地を知らなかったあの頃から 10

ああ 角笛はもはや響かず  
<sup>ゆづる</sup>弓弦の音も聞こえない  
角笛は静まり  
静寂が荒野を駆け 丘を登る  
森の中に響く笑い声も聞こえない 15  
さびしい森の奥深くでは  
ひとりぼっちの森の妖精がこだまを返しては  
聞くものを驚かせてさせてはからかう

風薫る六月の盛りには盛りに行くもよい  
太陽や月の光に照らされ 20  
あるいは北斗七星に導かれ  
あるいは北極星に誘われて  
けれどもリトル・ジョンや勇敢なロビンに  
会うことなど 決してないのだ  
空き缶を叩いて 25  
古い狩の歌を口ずさむ  
ロビンの仲間に会うこともない  
その隙に ロビンは森の道を心弾ませ  
トレント川のほとりの草地で踊る  
陽気な五月姫の元へと向かうはず 30  
だが こんな陽気な話は

今では香りのよいエールの肴さかなに過ぎない

モリスダンスのお祭り騒ぎは もうないのだ  
ガムリンの歌も もうないのだ  
古の緑の森にあそぶ 35  
堅く帯を締めた無法者も もういないのだ  
すべては消え去り過去のもの  
もしもロビンが緑の墓から  
ふと起き上がることがあるならば  
もしもマリアンが 40  
この森に戻ってくることがあるならば  
マリアンは泣き ロビンは怒り狂うだろう  
ロビンはきつと罵るだろう 樫の木がみんな切り倒され  
造船所に積み上げられて  
塩辛い海の水で腐っていくのだから 45  
マリアンは泣くだろう  
蜜蜂が歌いかけることがないのだから—  
変だわ 蜂蜜ハニーに金マネーが要るなんて

そんなものだ それでも我らはうたおう  
古き弓弦ゆづるの調べに栄光あれ！ 50  
角笛の響きに栄光あれ！  
うっそうと茂る森に栄光あれ！  
リンカンの森に栄光あれ！  
眼光鋭い射手に栄光あれ！  
凄腕のリトル・ジョンに栄光あれ！ 55  
ジョンの馬にも栄光あれ！  
深い森の中で眠る  
勇敢なロビン・フッドに栄光あれ！  
乙女マリアンに栄光あれ！  
シャーウッドのすべての勇者に栄光あれ！ 60  
勇者たちの日々は瞬く間に過ぎ去ってしまったが  
我ら二人は歌でもうたおう

(鎌田明子訳)